

# 「1億円プレイヤー」500人超

## 役員報酬にもグローバル化の波

高額報酬を得た主な経営者

氏名(社名)	報酬額(億円)
平井一夫(ソニー)	27.1
ロナルド・フィッシャー (ソフトバンクグループ)	20.1
マルセロ・クラウレ (ソフトバンクグループ)	13.8
ラジーブ・ミスラ (ソフトバンクグループ)	12.3
クリストフ・ウェバー (武田薬品工業)	12.1
瀬戸欣哉(LIXILグループ)	11.2
赤沢良太(扶桑化学工業)	10.3
ティディエ・ルロワ (トヨタ自動車)	10.2
吉田憲一郎(ソニー)	8.9
宮内謙 (ソフトバンクグループ)	8.6

(注)東京商工リサーチ調べ、29日現在。敬称略

上場企業の役員報酬 上位10人にはソフトバンクグループから4人が入った。米携帯子会社スプリント最高経営責任者(CEO)のマルセロ・クラウレ氏、ソフトバンク・ビジョン・ファンドに投資助言をするラジーブ・ミスラ氏とともに10億を越えた。孫正義氏には1億3700万円。1位はソニーの平井一夫氏で27億円だった。日産自動車のカルロス・ゴーン氏は7億3500万円と前年より3割減ったものの、仏ルノーと三菱自動車からの分も合わせると約19億円となった。

上位10人のうち、5人は外国人だ。企業はグローバル競争を強いられ、戦略策定がより難しくなるなかで、「プロ経営者」と呼ばれる外部人材の登用も相次いでいる。高額報酬に対応するため、役員報酬の上限を上げる企業も出ており、ソフトバンクは金銭による報酬額を削減全体で年50億円以内(従来は8億円以内)と変更した。

欧米流の業績・株価に連動する報酬の導入も広がった。業績拡大と株高の影響で、役員報酬が上積みされた面がある。